

## 「鎌足桜の魅力」写真と短歌・俳句コンテスト

### ＜俳句の部 講評＞ 川合 憲子

俳句の部は、一般が72句の応募でしたので、昨年と同じでした。新型コロナ禍の中でしたが、作品は昨年に劣ることなく、優れたものがあり嬉しく思いました。

常識的な報告句ではなく、そこに「詩」があり、自分に引き付けて詠んだ句に好感が持てました。

地元の鎌足中学校も32句の応募があり、自分の言葉でのびのびと詠んであり、昨年より多く5句を佳作としてあります。

審査をするとき①まず景がよく見える句、②定型の美しさ、リズムの美しさがあることを観点としました。

#### ○ 鎌足桜保存会会長賞 〈 鎮魂の一打の鐘や遅桜 高橋正子 〉

鎮魂は魂をおちつけしずめることです。作者の搗く鐘の音が響きます。あたかもこのコロナ禍の蔓延する世を鎮めるかのように。皆さんの願いかもしれません。これは、取り合わせの句ですが、遅桜がしっかりと見え、重厚な奥行の深い句になっています。

鎌足桜という言葉を使っていませんが、一般的に八重桜など花時に遅れて咲く桜のことを遅桜といいます。

#### ○ 鎌足公民館館長賞 〈 鎌足をめぐる桜の一日かな 元吉さち子 〉

穏やかでゆったりとしたやすらぎの作品です。切れ字の「かな」が作者の満ち足りた心を表現しています。鎌足の青い空や、豊かな自然、心地よい風の中を作者は鎌足桜を愛でながら散策しています。幸せな「一日」です。

#### ※佳作の中学生作品より

##### 〈 夕暮れのすべてのさくらさようなら 中1 松井行利 〉

リズムがいいですね。

すべての「す」、さくらの「さ」、さようならの「さ」とサ行の音がきれいです。

##### 〈 ちる桜かなしいきもちつれていく 中2 安西煉哉 〉

この作品は写生句ではなく、ちる桜を自分に引き付けて詠んだ句です。

#### 最後に私の拙句

##### 〈 とこしへに風の過ぎゆく八重桜 川合憲子 〉

本年度で最後の「鎌足桜の魅力」コンテストになるそうです。

「とこしへに」いつまでも、鎌足桜の咲く里の自然と、そこに住む人々の平和をお祈りいたします。ありがとうございました。